

令和6年9月定例会 総括審査会

鳥居 作弥委員

鳥居作弥委員

日本維新・無所属の会の鳥居である。通告に従い質問する。

まず、バリアフリートイレについては明確な設置基準がなく、その形態や形状は様々であり、前後に長いバギー型や横幅が広い車椅子はこのトイレに入れない状況がある。また、全身麻痺などによりおむつ交換のみ必要な人には、便座ではなく広いスペースや簡易ベッド、介護用ベッドが必要であるが、ほぼ設置されていない。必要に迫られ、健常者が使用するトイレの床にシートを敷き、寝ておむつ交換する事例もあるようである。当然、費用が発生することから、すぐに改築や設置することは無理だと思うが、少しずつでも改善するよう願う。

今回の質問の本題は、既存のバリアフリートイレの情報提供である。障がい者が外出する際、家族や施設職員が真っ先に確認するのはトイレとのことだが、トイレの情報が少ないため外出できない場合や、冠婚葬祭などでさえ連れていけないことがある。バリアフリートイレの場所、トイレ内の写真、寸法、設備、トイレまでのアプローチなど、公的施設のみならず民間施設についても一括して情報提供すべきと思うが、県は、障がい者等が利用しやすいトイレ、いわゆるバリアフリートイレの情報提供にどのように取り組んでいくのか。

保健福祉部長

バリアフリートイレについては、人にやさしいまちづくり条例に基づき、トイレを含む整備基準に適合する施設にやさしさマークを交付しホームページで紹介するなど、周知に努めてきた。今後も市町村等と連携し内容の充実を図るなど、より役立つ情報提供に取り組んでいく。

鳥居作弥委員

せっかくこれから進化させて造っていくものであるため、よいものを造ってほしい。

参考であるが、例えば東京都の「だれでも東京」というホームページは、整理されていて非常に見やすく、よいサンプルであるので見てほしい。そのほか、東京都の民間企業を含めた、バリアフリートイレの情報発信を積極的に行っているが、その理由は、東京オリンピック・パラリンピックを機に福祉インフラが一気に整備されたためである。

本県に目を転ずると、来年から開始するブレDC（Destinyネーション・キャンペーン）やDCがあり、観光イベントであるが福祉の視点もしっかりと取り入れることが大事であると思う。先日、DCに向けた実行委員会が設立され、様々な検討項目が確認されたとのことであるが、インバウンド対策をしっかり行う一方、高齢者や障がい者など誰でも安全・安心に観光できることこそが本県ならではのところであると思う。その中で、保健福祉部として福祉的な立場でDCに対し様々な提案をしていくべきと思うが、意見を聞く。

保健福祉部長

バリアフリートイレをはじめ施設内設備の整備内容を分かりやすく一覧表にしてホームページに掲載するなど、まずは情報提供の充実を図っていききたい。また、DCを控えていることから、福祉的な視点を持ち、人に優しい施設の拡充などについても、引き続き観光担当の部局と連携して対応していく。

鳥居作弥委員

しっかりと連携し、福祉的な底上げを含めDCに寄与することを願う。

次に、子育てを応援する機運の醸成についてであるが、2月定例会の一般質問においてファミたんカードについて質問

したところ、11月の子育て週間に合わせて当該カードのキャンペーンを行うとの答弁があった。ちょうど1か月後に迫っているが、県は子育て週間におけるファミたんカード特別企画の実施に向け、どのように取り組んでいるのか。

こども未来局長

ファミたんカード特別企画については、子育て週間を盛り上げ、子育て中の若い世代が子供や子育てに優しい社会を実感できる取組として実施するものであり、その趣旨に賛同する150を超える店舗の協力の下、魅力あるサービスを提供する予定である。今後は利用促進に向け、子育て世帯へ情報発信するとともに、各店舗にのぼり旗を掲出するなど、キャンペーンの機運を高めていく。

鳥居作弥委員

ある協賛店舗から、子供連れで来店しているにもかかわらず、ファミたんカードを知らずに使用しない客が多いと聞いた。これから魅力的なすばらしいキャンペーンを実施するのであれば、単に情報発信だけでなく、受け身の人々に対してもしっかりと届くような戦略的な情報提供等が必要と思うが、その辺りの考えを聞く。

こども未来局長

福島県子育て支援ポータルサイト「すくすくひろば」を中心に、子育て世帯にターゲットを絞り、SNS、ウェブ広告、雑誌やタウン情報誌への掲載、ポスターやチラシの配布、テレビやラジオでのスポット広報など様々なメディアを活用し、10月下旬～11月のキャンペーン期間中にかけて目に留まる機会を増やし、集中的に情報発信したい。

鳥居作弥委員

このキャンペーンの基本的な目的は、地域や社会が一緒になって子育てしていく実感や機運を高めることだと思うので、さらなる尽力を願う。

最後に、アクアマリンふくしまについて質問する。ゴールデンウィークや夏休みに限らず、多くの子供たちの興味をそそるイベントやワークショップを開催するなど、楽しみながら、遊びながら海洋に触れて学べる企画の実施に感謝するが、入館料が少し高いと感じる。入館料は大人が1,850円、小学生から高校生までが900円であり、家族4人であれば入館料だけで5,500円となり、釣り体験の料金や昼食代も含めると1万円を超えてしまう。県も一定程度補助をしていると聞くが、アクアマリンふくしまは子供たちにとって、例えば千葉県にある夢の国のような特別な場所ではなく、もっと身近な好奇心や探究心を駆り立てる学びの場であるべきである。

そこで、アクアマリンふくしまの子供料金を無料にすべきと思うが、県の考えを聞く。

文化スポーツ局長

アクアマリンふくしまの子供料金は、小学生から高校生までが900円、未就学児は無料であり、そのほかの割引制度も利用できることから、隣県の水族館等に比べ割安な料金設定となっている。また、本県独自の制度により、学校による教育活動の場合には全額を免除しており、現状の価格を維持しながら、子供たちが来館しやすい環境づくりに引き続き取り組んでいく。

鳥居作弥委員

隣県の施設と比べて非常に割安とのことであるが、例えば、アクアマリンふくしまと同じく公益財団法人である上野動物公園や葛西臨海水族園などは、一般料金が600～700円であり、ゴールデンウィークや記念日には無料にしていることから、子供たちがアクアマリンふくしまをより身近に感じるための活動をこれからも続けてほしい。最後に私が言いたいことは、子供たちにとって身近なアクアマリンふくしまであってほしいということであるが、局長の意見を聞く。

文化スポーツ局長

子供料金の無料化については、閑散期等の一定期間実施するなど、様々な視点で検討の余地はあると考えるが、現時点では提案として受け止める。指定管理者、周辺の季節感、減収分の費用など、今後様々な検討が必要かと思うので、引き続き慎重に検討していく。

鳥居作弥委員

この場で無料にするとは言えないと思うが、関係部局等としっかり議論し、どのような結論でもよいが、より身近なアクアマリンふくしまにするよう切に願う。